

性腺機能障害

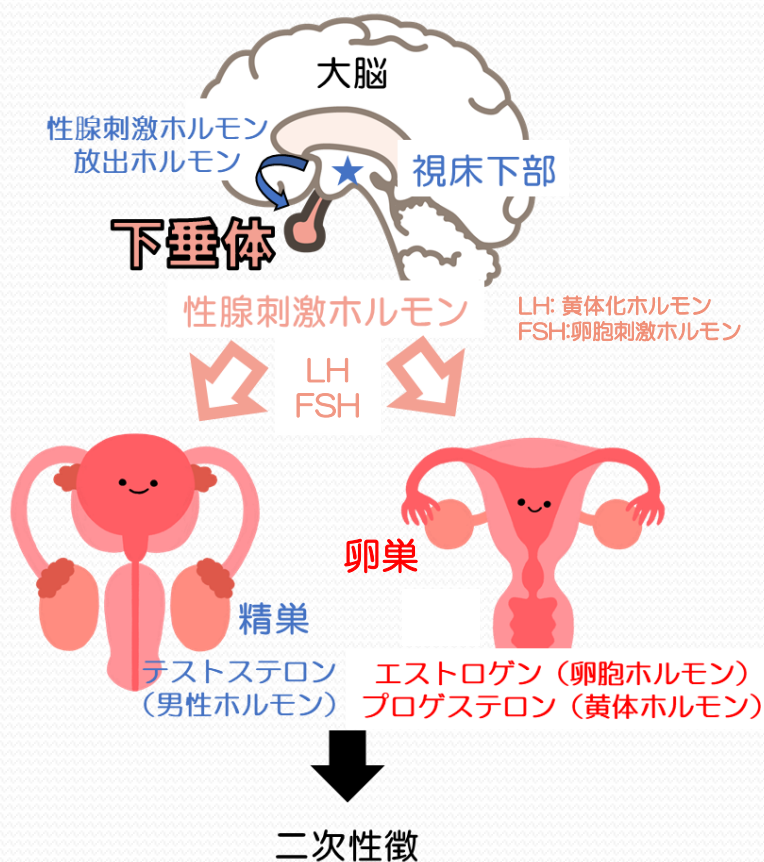
- 性腺機能障害では、二次性徴の障害や、不妊症、骨粗しょう症などの症状がでることがあります
- 成人後は特に、性機能障害や早期閉経も重要です
- 頭部・腹部・骨盤部の放射線照射や移植前処置として全身放射線照射を受けた場合は、性腺機能に注意が必要です
- 抗がん剤（一定量以上のアルキル化薬など）を使用した場合は、性腺機能低下のリスクがあります

性腺刺激ホルモン

二次性徴を助ける
ホルモンで
脳下垂体から分泌される

性ホルモン

二次性徴をおこす
骨を丈夫にする



二次性徴

- 思春期になってあらわれる、性器以外の身体の各部分にみられる男女の特徴
- 性ホルモンの影響で男子では声変わりや筋肉の発達、外性器の発育が生じ、女子では初潮や乳房の発達、皮下脂肪の蓄積などが生じます

思春期

- 二次性徴の出現（乳房発育・声変わりなど）から性成熟（性機能が成熟する18～20歳ころ）までの段階



思春期早発症

＝ 思春期がくるのが早い

リスク因子：頭部への照射（18-30Gy）、視床下部を含む手術など

<受診の目安>

女の子

7歳6ヶ月未満：乳房発育

8歳未満：陰毛/腋毛発生

外陰部成熟

10歳6ヶ月未満：初経

男の子

9歳未満：精巣、陰茎、陰嚢の発育

10歳未満：陰毛発生

11歳未満：腋毛、ひげの発生や

声変わり

治療は、性腺刺激ホルモンを抑える薬を注射します

性腺機能低下症

＝ 思春期がくるのが遅い、二次性徴が途中で停止する

リスク因子：頭部照射（>30Gy）、視床下部・下垂体を含む手術

アルキル化薬、アントラサイクリン、精巣照射、卵巣照射など

<受診の目安>

女の子

13歳：思春期※¹がこない

月経異常※²

二次性徴が完成しない

男の子

14歳：思春期※¹がこない

二次性徴が完成しない

※¹：思春期：思春期早発症の<受診の目安>に記載のある身体的特徴

※²：月経異常：月経未発来、月経停止、早期閉経など

治療は、不足する性ホルモンを補う薬（注射薬・内服薬・貼付薬）を使用します

定期的に身長・体重測定を行うほか、必要時にはホルモン値の採血や手のレントゲン検査（骨年齢の評価）、二次性徴の診察をうけましょう